(2019.4改正)

＜別紙１＞

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社フィールズ

②施設・事業所情報

名称：保育園アレッタ		種別：認可保育所
代表者氏名：野坂 智子		定員（利用人数）：30名（利用人数26名）
所在地：〒212-0016　川崎市幸区南幸町3-3		
TEL：044-742-3550		
ホームページ：https://www.hibambina.jp/blank-9		
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：平成29年4月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：株式会社ばんびーな		
職員数	常勤職員：　14名	非常勤職員：　0名
専門職員	（専門職の名称）　名	
	保育士：11名	栄養士：2名
	看護師：1名	
施設・設備の概要	（居室数）保育室：3　トイレ：3　調理室：1　事務室：1 相談室：1　多目的ルーム：1	
	（設備等）園庭：なし	

③理念・基本方針

【運営方針】
こどもを通してつながりあい、みんながともに育ちあえる園

【保育理念】
・こどもたちのありのままを愛する保育
・こどもたちの一瞬一瞬を大切にする保育
・こどもたちの生きる力を身につける保育
・

④施設・事業所の特徴的な取組

・0歳児から5歳児クラス、それぞれ5名ずつの編成で30名定員の小規模な保育園である。保育室を0歳児室、1・2歳児室、3・4・5歳児室に分けて過ごしており、日常的に異年齢保育を取り入れている。
自ずと毎日の関わり合いから互いの認識力や感情の芽生えの違いに繰り返し気づける機会を生み、その気づきから子どもたちがたくさんのことを学べるよう保育者が援助をするという保育を大切にしている。保育の基本ではあるがその時間、その過程を乳幼児期にたっぷり経験できるよう保障し、に文字通り「心身ともに健やかに」成長していける事を大切にしている。異年齢保育は、子どもたちがその過程を味わうには最も自然に作用しているので0歳児クラスでも月齢によっては1歳児と過ごしたり、2歳児も年度後半になると3歳児と過ごしたりと発達に合わせ異年齢保育のあり方も考慮している。
・駅近くであるが閑静な住宅街に囲まれ、近隣には南河原公園・諏訪公園・柳町公園が

徒歩１０分以内のところにあり四季折々の自然が感じられる立地にある。園庭はないが戸外遊びを五感で楽しみ、五感が育まれるよう十分に時間を確保するとりくみをしている。 ・就学前プログラムとしておもに年長児クラスにサークル活動時間も取り入れている。互いの思いを知り、互いが了解し合うことを経験する。 ・給食・おやつ・午後補食も必要な栄養量を満たしながらも自園調理をしている。 ・ばんび農園にて子どもたちと保育者・栄養士、時には保護者も一緒に畑の共同作業に取り組み「つながり」も産んでいる。 ・利用児世帯は、ＪＲ川崎駅周辺に居住し、都内や横浜に通勤している世帯が多い。入所要件は、１００％近くが保護者の就労によるもので8割近くが第一子目の子育て世帯である。保護者支援の重点は、子どもの発達を共に理解し合うことから取り組んでいる。 ・少人数で子も親も親密で家庭的な保育は深まるが、就学を見据え大きな集団においても自分らしく居られるようなとりくみも必要だと考えている。他園との交流を取り入れ、自園には存在しない考えや個性を持つ子とのかかわりも意識的に取り入れている。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和3年9月10日（契約日）　～ 令和4年4月20日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	ー　　回（　　年度）

⑥総評

◇特に評価の高い点

1)子ども同士が育ち合う異年齢保育の実践

小規模園の特性を生かして日常的に異年齢保育を行う中で、各クラスの子ども一人ひとりの様子を全職員で共有し、園全体ですべての子どもを見守る体制で保育にあたっています。様々な活動を異年齢で一緒に行うことで互いに育ち合う環境が形成され、子どもたちは、思いやりや優しさ、憧れを抱く気持ちを育みながら園生活を送っています。保護者とは、日々のやり取りを積み重ねる中で信頼関係を築きながら子どもの育ちを共有しています。

2)食についての関心を深めるための食育活動への取組

5歳児クラスでは、食育活動の取組としてさつま芋作りを取り入れ、植え付けや草むしり、収穫などの体験を通して野菜を食べる意欲や食に対する感謝の思いを育んでいます。収穫したさつま芋を見ながら図鑑で調べたり、制作に使ったり、おやつで食べるなどしています。食べ物への興味関心を深めていくクッキング活動では、玉ねぎの皮むきをしたり、包丁を使って食材を切る、洗い物をするなど、年齢に応じて様々な体験ができるように取り組んでいます。

3)子どもたちの自由な発想を大切にした環境づくり

近隣の自然豊かな公園に毎日のように遊びに行き、体を動かしながら季節の移り変わりを感じています。子どもたちは公園で見つけた虫を持ち帰り、観察して調べたり、折り紙で虫を作って森を再現するなど、公園遊びの続きを制作の中に取り入れるなど自由に遊びを楽しんでいます。職員は、子どもたちの自由な発想を大切にして、遊びがより豊かに展開できるよう環境を整えながら保育にあたっています。

◇改善を求められる点

1)職員一人ひとりの育成に向けたさらなる取組

法人では、職員一人ひとりの資質向上に向けて、経験年数や能力に応じて必要な技術や知識が習得できるよう、全体研修を実施するなどして人材育成に取り組んでいます。今後はさらに、人材育成計画などでキャリアパスの仕組みを明確に示し、目標管理の適切な実施や個別の研修計画の作成につなげるなど、職員一人ひとりの育成に向けたさらなる取組が期待されます。

2)実習生やボランティア、職場体験の受け入れに向けた取組

実習生やボランティア、職場体験の受け入れに関する法人及び園としての基本姿勢を明確にし、それぞれの受け入れ対応マニュアルを策定し、体制を整備されることが期待されます。地域の社会資源の役割として次世代の保育者を育成することや、子どもたちの社会体験をより広げられるよう、今後、実習生やボランティア、地域の小・中学生の職場体験などの受け入れに向けたさらなる取組が期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

この度第三者評価を受審させていただき、職員一同、日ごろの保育や園運営について振り返りをする機会を頂戴しましたことにまずは感謝申し上げます。

実施時期が下半期であったこともあり、おのずと保育園の自己評価もすすめていく時期と重なりました。一年間の保育を振り返る視点を第三者評価のとりくみからも頂戴し、保育者一人ひとりが成果と課題の整理が進んだようです。

保育者に求められていること、園に求められていることへの気づきは、第三者評価のための対話にとどまらせることなく継続し、「今よりももっと」という姿勢で
精進していきたいと思います。
開所から５年が経過しました。
園づくりの基盤を作るべく駆け抜けてきたチームから、保育内容の充実や保護者支援の深まり、職員の連携強化などにじっくりと取り組めるようなチームへと変化していく時だとも感じております。まだまだ課題は尽きず、評価をいただき、たくさんのことに気づかされるばかりでありましたが、子どもたちはもちろんのこと、保護者も保育者も園にかかわる人たち皆が安心し、明日を楽しみにできるような園づくりをしていく気持ちを新たにできた第三者評価となりました。有難うございました。

⑧第三者評価結果

別紙２のとおり